

【表紙】

【提出書類】 半期報告書

【提出先】 中国財務局長

【提出日】 平成30年6月26日

【中間会計期間】 第58期中(自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)

【会社名】 備南観光開発株式会社

【英訳名】 BINAN KANKO KAIHATSU CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 内海 康 仁

【本店の所在の場所】 広島県福山市神村町1388番地

【電話番号】 084-933-3174

【事務連絡者氏名】 総支配人 八 塚 祐 治

【最寄りの連絡場所】 広島県福山市神村町1388番地

【電話番号】 084-933-3174

【事務連絡者氏名】 総支配人 八 塚 祐 治

【縦覧に供する場所】 該当ありません

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第56期中	第57期中	第58期中	第56期	第57期
会計期間	自 平成27年 10月1日 至 平成28年 3月31日	自 平成28年 10月1日 至 平成29年 3月31日	自 平成29年 10月1日 至 平成30年 3月31日	自 平成27年 10月1日 至 平成28年 9月30日	自 平成28年 10月1日 至 平成29年 9月30日
売上高 (千円)	188,627	194,853	190,034	331,631	357,147
経常利益 (千円)	22,029	26,119	33,933	503	10,188
中間(当期)純利益又は 当期純損失( ) (千円)	14,307	16,118	22,243	631	6,506
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	90,000	90,000	90,000	90,000	90,000
発行済株式総数 (株)	8,250	8,250	8,250	8,250	8,250
純資産額 (千円)	1,465,851	1,467,030	1,479,662	1,450,912	1,457,419
総資産額 (千円)	1,602,948	1,599,352	1,604,395	1,578,986	1,581,002
1株当たり純資産額 (円)	177,678.93	177,821.93	179,353.04	175,868.16	176,656.85
1株当たり 中間(当期)純利益又は当 期純損失( ) (円)	1,734.22	1,953.77	2,696.19	76.56	788.69
潜在株式調整後 1株当たり 中間(当期)純利益 (円)	-	-	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	91.4	91.7	92.2	91.9	92.2
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	49,231	44,153	43,892	52,554	57,625
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	52,090	45,855	30,589	57,043	6,524
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	4,860	4,860	4,860	9,720	9,720
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高 (千円)	191,644	270,302	234,977	185,154	226,534
従業員数 (人)	32	32	31	32	33
(外、平均臨時雇用者数)	(8)	(9)	(10)	(9)	(10)

(注) 1 売上高には、消費税等を含まない。

2 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 当社は中間連結財務諸表を作成しておりません。

4 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当中間会計期間において、重要な変更はありません。

3 【関係会社の状況】

当社には関係会社はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数(人)	31(10)
---------	--------

(注)従業員数は就業人員数であり、臨時雇用者数は( )内に当中間会計期間の平均人員を外数で記載してあります。

(2) 労働組合の状況

当社には労働組合はありません。

なお、労使関係について特に記載すべき事項はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

当社には、子会社がなくゴルフ場経営しか行っておりませんので、セグメントの記載はしていません。

#### (1) 業績

当上半期の来場者は、14,841人で前上半期の15,323人に比し482人の減少（前年同期比3.1%減）でした。営業収入は190,034千円（前年同期比2.5%減）を計上し、経費の圧縮を図った結果、経常利益は33,933千円（前年同期比30.0%増）、中間純利益は22,243千円（前年同期比38.0%増）となりました。

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

#### (2) キャッシュ・フロー

当中間会計期間における現金及び現金同等物(以下資金という)は、営業活動により43,892千円増加しましたが、投資活動により30,589千円、財務活動により4,860千円それぞれ減少した結果、前中間会計期間末に比べ35,324千円（13.1%）減少し、当中間会計期間末には234,977千円となりました。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間における営業活動による資金の増加は43,892千円となり、前中間会計期間に比べ260千円（0.6%）のわずかな減少となりました。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間における投資活動による資金の減少は30,589千円（前中間会計期間は45,855千円の増加）となりました。これは定期預金の預入による支出等によるものであります。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間における財務活動による資金の減少は、4,860千円となり、前中間会計期間と同額となりました。これはリース債務の返済によるものであります。

## 2 【収容能力・来場者数・営業収入の状況】

### (1) 収容能力

当松永カントリークラブは自然を生かした手作りのコースで樹木に囲まれた各ホールは攻めるのに技術を必要とされるコースで、距離は少し短く18ホールズ(6,617ヤード、パー72)で1日の収容能力は230名位ではありますが、待時間を考えて200名位に止める様に致しております。

食堂収容人員は50テーブル200名と専用ミーティングルームによりゆっくりとパーティーも出来ます。  
練習場は、15打席であります。その他にバンカー練習場とパターの練習場があります。

(2) 来場者数実績

第57期上半期 (28.10.1～29.3.31)					第58期上半期 (29.10.1～30.3.31)				
月別	会員 (人)	ビジター (人)	計 (人)	1日平均	月別	会員 (人)	ビジター (人)	計 (人)	1日平均
10	980	1,937	2,917	(31日) 94人	10	670	1,561	2,231	(31日) 71人
11	846	2,135	2,981	(30日) 99人	11	894	2,095	2,989	(30日) 99人
12	964	1,591	2,555	(31日) 82人	12	1,020	1,773	2,793	(31日) 90人
1	942	1,473	2,415	(30日) 80人	1	1,056	1,373	2,429	(30日) 80人
2	788	1,099	1,887	(28日) 67人	2	667	1,029	1,696	(26日) 65人
3	1,014	1,554	2,568	(31日) 82人	3	1,154	1,549	2,703	(31日) 87人
計	5,534	9,789	15,323	(181日) 84人	計	5,461	9,380	14,841	(179日) 82人
%	36.1	63.9	100.0		%	36.8	63.2	100.0	

(3) 営業収入の実績

科目		第57期上半期 (28.10.1～29.3.31)		第58期上半期 (29.10.1～30.3.31)	
		金額(千円)	百分比(%)	金額(千円)	百分比(%)
営業収入の部	入場料収入	24,330	12.5	25,114	13.2
	キャディフィ収入	49,392	25.3	46,749	24.6
	食堂売店収入	38,286	19.6	37,454	19.7
	厚生費収入他	50,485	26.0	47,959	25.3
	会費	32,357	16.6	32,757	17.2
合計		194,853	100.0	190,034	100.0

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

3 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当中間会計期間において当社が対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

4 【事業等のリスク】

当中間会計期間において、本半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

## 5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6 【研究開発活動】

サービス業のため特に研究開発活動は行っていません。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 当中間会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ23,393千円増加し、1,604,395千円となっております。

中間貸借対照表の主要項目ごとの主な増減は、次のとおりであります。

### (流動資産)

流動資産は、前事業年度末に比べ、39,367千円増加し353,831千円となりました。これは現金及び預金の増加が主な要因であります。

### (固定資産)

固定資産は、前事業年度末に比べ、15,974千円減少し、1,250,563千円となりました。これは減価償却費22,043千円が主な要因であります。

### (負債)

負債は、前事業年度末に比べ、1,150千円増加し、124,733千円となりました。これは未払法人税等の計上11,351千円が主な要因であります。

### (純資産)

純資産は、前事業年度末に比べ、22,243千円増加し、1,479,662千円となりました。これは中間純利益の計上によるものであります。

(2) 当中間会計期間の経営成績の分析

当中間会計期間の経営成績の状況につきましては、「1 業績等の概要 (1) 業績」に記載のとおりであります。

(3) キャッシュ・フローの分析

キャッシュ・フローの状況につきましては、「1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フロー」に記載のとおりであります。

(4) 財政状態及び経営成績に重要な影響を与える要因について

当社の財政状態及び経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「4 業績等のリスク」に記載のとおりであります。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【主要な設備の状況】

該当事項はありません。

#### 2 【設備の新設、除却等の計画】

当中間会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000
計	12,000

##### 【発行済株式】

種類	中間会計期間末 現在発行数(株) (平成30年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年6月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,250	8,250	非上場・非登録	当社は単元株制度は採用して おりません。
計	8,250	8,250		

(注) 当社の株式の譲渡については、当社取締役会の承認を要します。

#### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5) 【発行済株式総数、資本金等の状況】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総数 残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減 額(千円)	資本準備金残高 (千円)
平成30年3月31日	-	8,250	-	90,000	-	1,331,790

## (6) 【大株主の状況】

氏名又は名称	住所	平成30年3月31日現在	
		所有株式数 (株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
リョービ株式会社	府中市目崎町762	216	2.62
福山瓦斯株式会社	福山市南手城町2丁目26番1号	156	1.89
光和物産株式会社	福山市南本庄2-1-27	126	1.53
山陽染工株式会社	福山市一文字町10-1	108	1.31
株式会社一富士興業	福山市西町3-1-1	108	1.31
日東製網株式会社	東京都港区新橋2-20-15-701	84	1.02
株式会社天満電機産業	尾道市高須町有江台2956-10	78	0.95
府中高速運輸株式会社	府中市本山町530番地の184	66	0.80
ヒロボー株式会社	府中市本山町530-214	66	0.80
リョービミツギ株式会社	尾道市御調町高尾200	60	0.73
計		1,068	12.95

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,250	8,250	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
発行済株式総数	8,250		
総株主の議決権		8,250	

## 【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
計					

## 2 【株価の推移】

当社の株式は、非上場、非登録のため該当事項はありません。

## 3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当半期報告書の提出日までの役員の異動は、ありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 中間財務諸表の作成方法について

当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間会計期間(平成29年10月1日から平成30年3月31日まで)の中間財務諸表について、公認会計士 新木武馬氏により中間監査を受けております。

### 3 中間連結財務諸表について

当社には子会社がありませんので、中間連結財務諸表は作成しておりません。

1 【中間連結財務諸表等】

(1) 【中間連結財務諸表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2 【中間財務諸表等】  
 (1) 【中間財務諸表】  
     【中間貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年 9月30日)	当中間会計期間 (平成30年 3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	276,534	314,977
未収入金	25,828	22,060
たな卸資産	5,392	6,353
仮払金	197	151
その他	6,509	<sup>2</sup> 10,289
流動資産合計	314,464	353,831
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	575,260	566,908
構築物（純額）	127,738	124,364
機械及び装置（純額）	12,604	11,202
車両運搬具（純額）	306	246
工具、器具及び備品（純額）	16,174	17,479
リース資産（純額）	56,250	51,750
土地	471,762	471,762
有形固定資産合計	<sup>1</sup> 1,260,097	<sup>1</sup> 1,243,715
無形固定資産	1,594	1,798
投資その他の資産	4,845	5,050
固定資産合計	1,266,537	1,250,563
資産合計	1,581,002	1,604,395
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,982	2,618
リース債務	9,720	9,720
未払法人税等	1,422	11,351
未払消費税等	4,715	-
賞与引当金	6,830	5,056
その他	33,425	<sup>2</sup> 35,681
流動負債合計	59,095	64,428
固定負債		
リース債務	51,030	46,170
退職給付引当金	13,457	14,135
固定負債合計	64,487	60,305
負債合計	123,583	124,733
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	90,000	90,000
資本剰余金		
資本準備金	1,331,790	1,331,790
資本剰余金合計	1,331,790	1,331,790
利益剰余金		
利益準備金	3,222	3,222
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	32,407	54,650
利益剰余金合計	35,629	57,872
株主資本合計	1,457,419	1,479,662
純資産合計	1,457,419	1,479,662
負債純資産合計	1,581,002	1,604,395

## 【中間損益計算書】

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日)	当中間会計期間 (自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	194,853	190,034
売上原価	94,779	90,047
売上総利益	100,074	99,987
販売費及び一般管理費	76,964	74,052
営業利益	23,110	25,934
営業外収益	1 3,008	1 7,998
営業外費用	-	-
経常利益	26,119	33,933
特別利益	-	-
特別損失	-	-
税引前中間純利益	26,119	33,933
法人税、住民税及び事業税	9,367	11,351
法人税等調整額	632	337
法人税等合計	9,999	11,689
中間純利益	16,118	22,243

## 【中間株主資本等変動計算書】

前中間会計期間(自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						株主資本合計	純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	90,000	1,331,790	1,331,790	3,222	25,900	29,122	1,450,912	1,450,912
当中間期変動額								
中間純利益					16,118	16,118	16,118	16,118
当中間期変動額合計					16,118	16,118	16,118	16,118
当中間期末残高	90,000	1,331,790	1,331,790	3,222	42,018	45,240	1,467,030	1,467,030

当中間会計期間(自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						株主資本合計	純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	90,000	1,331,790	1,331,790	3,222	32,407	35,629	1,457,419	1,457,419
当中間期変動額								
中間純利益					22,243	22,243	22,243	22,243
当中間期変動額合計					22,243	22,243	22,243	22,243
当中間期末残高	90,000	1,331,790	1,331,790	3,222	54,650	57,872	1,479,662	1,479,662

## 【中間キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日)	当中間会計期間 (自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前中間純利益	26,119	33,933
減価償却費	22,702	22,043
賞与引当金の増減額( は減少)	537	1,773
退職給付引当金の増減額( は減少)	483	677
受取利息	101	0
売上債権の増減額( は増加)	1,453	3,768
たな卸資産の増減額( は増加)	802	960
仮払消費税等の減少額又は増加額( )	9,845	5,820
その他の流動資産の増減額( は増加)	1,406	1,544
仕入債務の増減額( は減少)	446	363
未払消費税等の増減額( は減少)	9,587	4,715
仮受消費税等の増加額又は減少額( )	15,800	11,365
その他の流動負債の増減額( は減少)	5,378	14,385
小計	43,763	45,314
利息の受取額	101	0
法人税等の還付額	776	-
法人税等の支払額	488	1,422
営業活動によるキャッシュ・フロー	44,153	43,892
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入	50,000	-
定期預金の預入による支出	-	30,000
有形固定資産の取得による支出	4,144	589
投資活動によるキャッシュ・フロー	45,855	30,589
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
リース債務の返済による支出	4,860	4,860
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,860	4,860
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	85,148	8,443
現金及び現金同等物の期首残高	185,154	226,534
現金及び現金同等物の中間期末残高	270,302	234,977

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準及び評価方法は、最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用している。

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

平成19年3月31日以前に取得した建物、構築物、工具器具及び備品は旧定額法、機械及び装置、車輛運搬具は旧定率法を採用している。

平成19年4月1日以降に取得した建物、構築物、工具器具及び備品は定額法、機械及び装置、車輛運搬具は定率法を採用している。

なお、主な耐用年数は以下の通りである。

建物及び構築物	7年～65年
その他	3年～30年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用している。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっている。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース取引

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっている。

3 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

賞与引当金は、従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額のうち当中間会計期間の負担額を計上している。

(2) 退職給付引当金

従業員に支給される退職給付に備えるため当事業年度末における退職給付債務及び中小企業退職金共済制度により支給される金額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上している。

4 中間キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引出可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ価値の変動については僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期間の到来する短期投資からなっている。

5 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっている。

## (中間貸借対照表関係)

1

	前事業年度 (平成29年9月30日)	当中間会計期間 (平成30年3月31日)
有形固定資産の 減価償却累計額	1,323,006千円	1,344,903千円

## 2 消費税等の取扱い

前事業年度(平成29年9月30日)

-

当中間会計期間(平成30年3月31日)

仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺せず、それぞれ流動資産の「その他」、流動負債の「その他」に含めて表示しております。

## (中間損益計算書関係)

## 1 営業外収益のうち主要なもの

	前中間会計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日)	当中間会計期間 (自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)
名義書換料	2,800千円	6,600千円

## 2 減価償却実施額

	前中間会計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日)	当中間会計期間 (自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)
有形固定資産	22,702千円	21,897千円
無形固定資産	- 千円	146千円

(中間株主資本等変動計算書関係)

前中間会計期間(自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当中間会計期間末
普通株式(株)	8,250	-	-	8,250
合 計(株)	8,250	-	-	8,250

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

該当事項はありません。

当中間会計期間(自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当中間会計期間末
普通株式(株)	8,250	-	-	8,250
合 計(株)	8,250	-	-	8,250

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

該当事項はありません。

## (中間キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の中間期末残高と中間貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前中間会計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日)	当中間会計期間 (自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)
現金及び預金勘定	270,302千円	314,977千円
預入期間が3カ月を超える 定期預金	- 千円	80,000千円
現金及び現金同等物	270,302千円	234,977千円

## (リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

## (借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

前事業年度(平成29年9月30日)

リース資産の内容

有形固定資産 電磁誘導ゴルフカート55台であります。

リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

当中間会計期間(平成30年3月31日)

リース資産の内容

有形固定資産 電磁誘導ゴルフカート55台であります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「2.固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

## (金融商品関係)

前事業年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

金融商品の時価等に関する事項

平成29年9月30日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1)現金及び預金	276,534	276,534	-
(2)未収入金	25,828	25,828	-
(資産計)	302,363	302,363	-
(1)買掛金	2,982	2,982	-
(2)未払金	26,816	26,816	-
(3)未払法人税等	1,422	1,422	-
(4)未払費用	3,564	3,564	-
(5)預り金	3,045	3,045	-
(6)未払消費税等	4,715	4,715	-
(7)リース債務( )	60,750	59,108	1,641
(負債計)	103,295	101,653	1,641

( )リース債務は、流動負債に属する金額と固定負債に属する金額を合計した金額であります。

## (注) 金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金及び預金 (2) 未収入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

負債

- (1) 買掛金 (2) 未払金 (3) 未払法人税等 (4) 未払費用  
(5) 預り金 (6) 未払消費税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

- (7) リース債務

元利金の合計額を、新規に同様のリース取引を行なった場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しています。

当中間会計期間（自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日）

金融商品の時価等に関する事項

平成30年3月31日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。なお、時価を把握することが極めて困難とみとめられるものは含まれておりません。

(単位：千円)

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	314,977	314,977	-
(2) 未収入金	22,060	22,060	-
(資産計)	337,037	337,037	-
(1) 買掛金	2,618	2,618	-
(2) 未払金 1	19,637	19,637	-
(3) 未払法人税等	11,351	11,351	-
(4) 未払費用 1	2,546	2,546	-
(5) 預り金 1	2,131	2,131	-
(6) リース債務 2	55,890	54,525	1,364
(負債計)	94,176	92,812	1,364

1 未払金、未払費用及び預り金は、流動負債のその他に含まれています。

2 リース債務は、流動負債に属する金額と固定負債に属する金額を合計した金額であります。

(注) 金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金及び預金 (2) 未収入金

これらは、短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

負債

(1) 買掛金 (2) 未払金 (3) 未払法人税等 (4) 未払費用 (5) 預り金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

(6) リース債務

元利金の合計額を、新規に同様のリース取引を行なった場合に想定される利率で割り引いた現在価値

に

より算定しています。

(有価証券関係)

前事業年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

有価証券の保有はありません。

当中間会計期間(自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)

有価証券の保有はありません。

(デリバティブ取引関係)

前事業年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

当社はデリバティブ取引は全く利用していませんので該当事項はありません。

当中間会計期間(自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)

当社はデリバティブ取引は全く利用していませんので該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

前中間会計期間(自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当中間会計期間(自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

(持分法損益等)

当社には関連会社がないため該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

前事業年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

当ゴルフ場土地の一部は、賃貸借契約に基づく原状回復義務を有しておりますが、当該債務に関連する賃借資産であるゴルフ場用地として、開場以来、現在に至るまで更新契約を継続しており、今後も長期借地予定であることから、使用期間が明確でなく、資産除去債務を合理的に見積もることができません。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上していません。

当中間会計期間(自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)

当ゴルフ場土地の一部は、賃貸借契約に基づく原状回復義務を有しておりますが、当該債務に関連する賃借資産であるゴルフ場用地として、開場以来、現在に至るまで更新契約を継続しており、今後も長期借地予定であることから、使用期間が明確でなく、資産除去債務を合理的に見積もることができません。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上していません。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間会計期間(自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日)

当社は、ゴルフ事業及びこれに付帯する業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当中間会計期間(自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)

当社は、ゴルフ事業及びこれに付帯する業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前中間会計期間(自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が中間損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高に区分した金額が中間損益計算書の売上高の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、中間損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当中間会計期間(自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が中間損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高に区分した金額が中間損益計算書の売上高の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、中間損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前中間会計期間（自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当中間会計期間（自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前中間会計期間（自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当中間会計期間（自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前中間会計期間（自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当中間会計期間（自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

1株当たり純資産額及び算定上の基礎並びに1株当たり中間純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成29年9月30日)	当中間会計期間 (平成30年3月31日)
(1) 1株当たり純資産額	176,656円85銭	179,353円04銭
(算定上の基礎)		
純資産の部の合計額(千円)	1,457,419	1,479,662
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	-	-
普通株式に係る中間期末(期末)の純資産額(千円)	1,457,419	1,479,662
1株当たり純資産額の算定に用いられた 中間期末(期末)の普通株式の数(株)	8,250	8,250

項目	前中間会計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日)	当中間会計期間 (自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)
(2) 1株当たり中間純利益	1,953円77 銭	2,696円19 銭
(算定上の基礎)		
中間純利益(千円)	16,118	22,243
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る中間純利益(千円)	16,118	22,243
普通株式の期中平均株式数(株)	8,250	8,250

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益について潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## (2) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の参考情報】

当中間会計期間の開始日から半期報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

有価証券報告書 及びその添付書類	事業年度 (第57期)	自 至	平成28年10月1日 平成29年9月30日	平成29年12月26日 中国財務局長に提出
---------------------	----------------	--------	--------------------------	--------------------------

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の中間監査報告書

平成30年6月25日

備南観光開発株式会社  
取締役会 御中

新木武馬公認会計士事務所

公認会計士 新木 武馬

私は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている備南観光開発株式会社の平成29年10月1日から平成30年9月30日までの第58期事業年度の中間会計期間(平成29年10月1日から平成30年3月31日まで)に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、中間キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

### 中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

私の責任は、私が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、私に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

私は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 中間監査意見

私は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、備南観光開発株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間会計期間(平成29年10月1日から平成30年3月31日まで)の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。